

株式会社 MORESCO

第68期(2025年3月1日~2026年2月28日)
定時株主総会資料

東証スタンダード 5018(石油・石炭製品)
2026/05/27

目次

- 事業報告
- 連結決算報告
- 第10次中期経営計画の進捗状況報告
- 決議事項
- 取締役紹介

目次

● 事業報告

● 連結決算報告

● 第10次中期経営計画の進捗状況報告

● 決議事項

● 取締役紹介

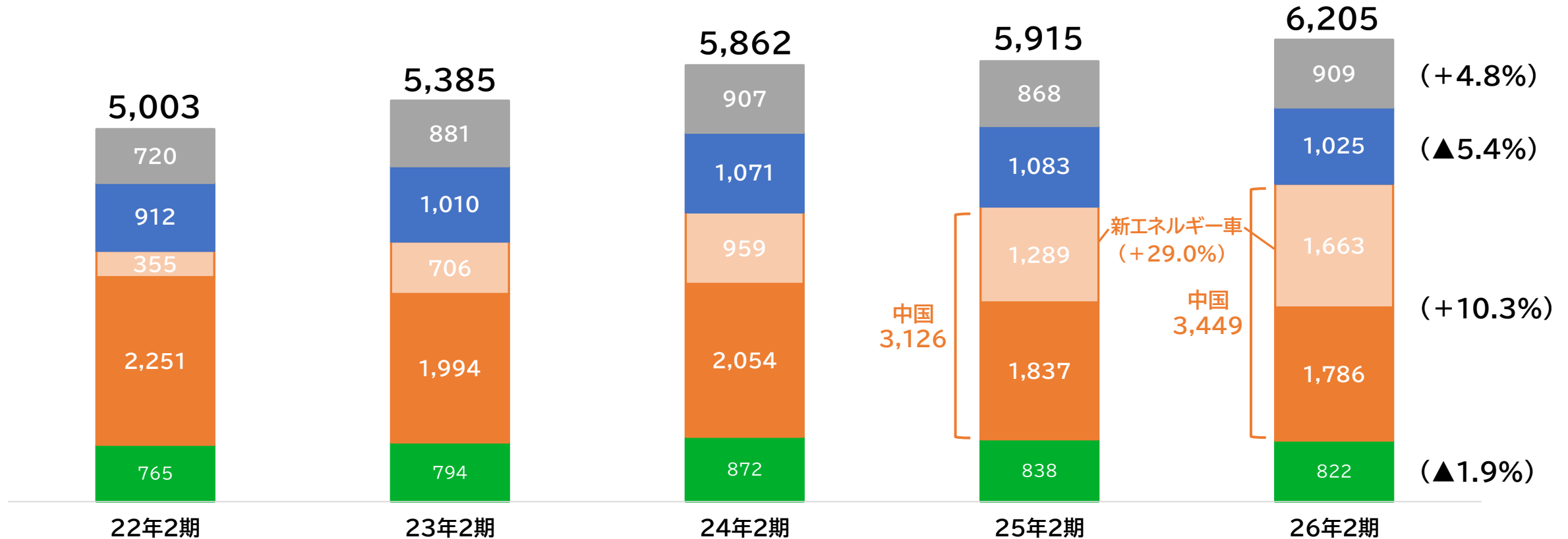
当期の経営環境-自動車生産台数

➤ 北米、日本は前期比減少。中国および東南・南アジア(インド)は増加

当社拠点所在地域における自動車生産台数の推移

■ 日本 ■ 中国 ■ 米国 ■ 東南/南アジア

単位:万台
():前期比



出所: マークラインズ社の資料をもとに当社作成

注1: 当社の会計年度を基準に集計(日本:3月~翌年2月 海外:1月~12月)

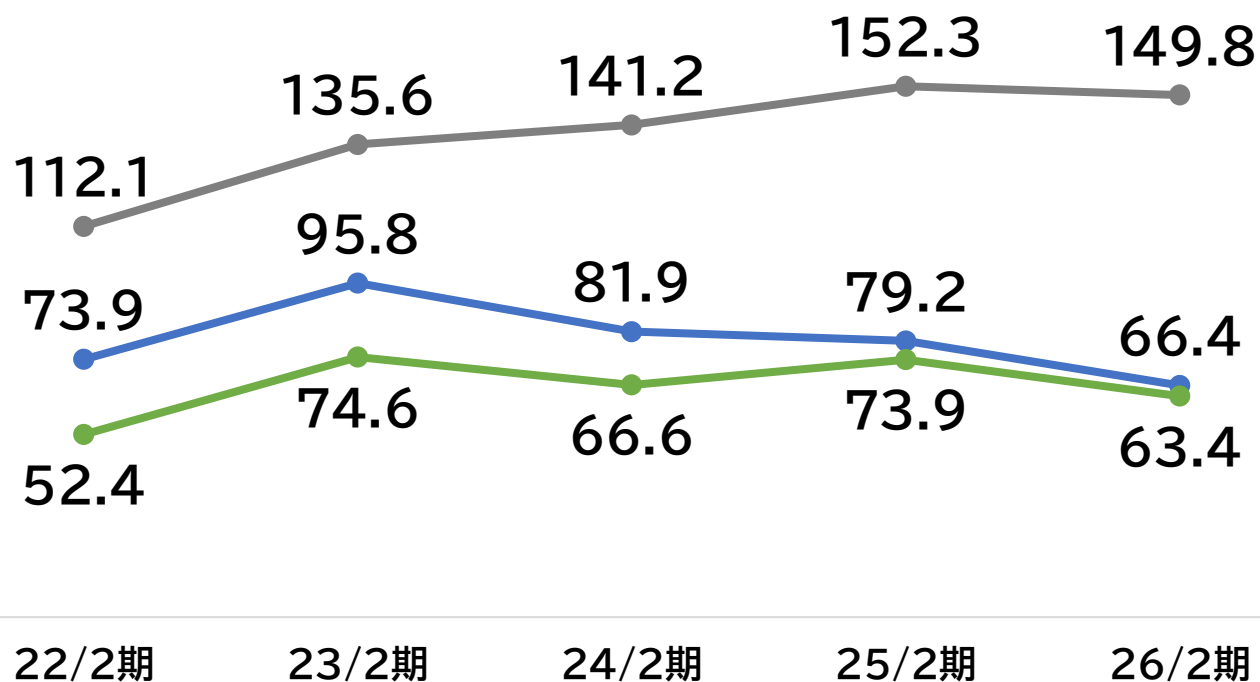
注2: 東南/南アジアは、当社拠点のあるタイ、インドネシアとインドを集計

当期の経営環境-為替・原油・ナフサ価格の推移

- 26/2期の平均為替レート(ドル/円)は前期と比べやや円高で推移
- 原油、ナフサ価格は低位で推移

為替・原油・ナフサ価格の推移(期中平均値ベース)

● 為替(\$/¥) ● ドバイ原油価格(\$/BBL) ● 国産ナフサ価格(千円/KL)



	26年2月期 実績	26年2月期 計画	計画比	前期比
為替レート (\$/¥)	149.8	145.0	+ 4.8	▲2.5
原油価格 (\$/BBL)	66.4	79.5	▲13.1	▲12.8
国産ナフサ価格 (千円/KL)	63.4	-	-	-

連結損益計算書

➤ 高付加価値製品の販売増加、販売費および一般管理費の抑制により、増収増益

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	34,374	34,871	+497	+1.4%
売上総利益	9,960	10,957	+997	+10.0%
販管費	8,569	8,590	+21	+0.3%
営業利益	1,391	2,367	+976	+70.2%
営業外損益	430	337	▲93	▲21.7%
経常利益	1,821	2,704	+883	+48.5%
税引前利益	1,585	2,612	+1,027	+64.8%
当期純利益※	1,013	1,525	+512	+50.6%

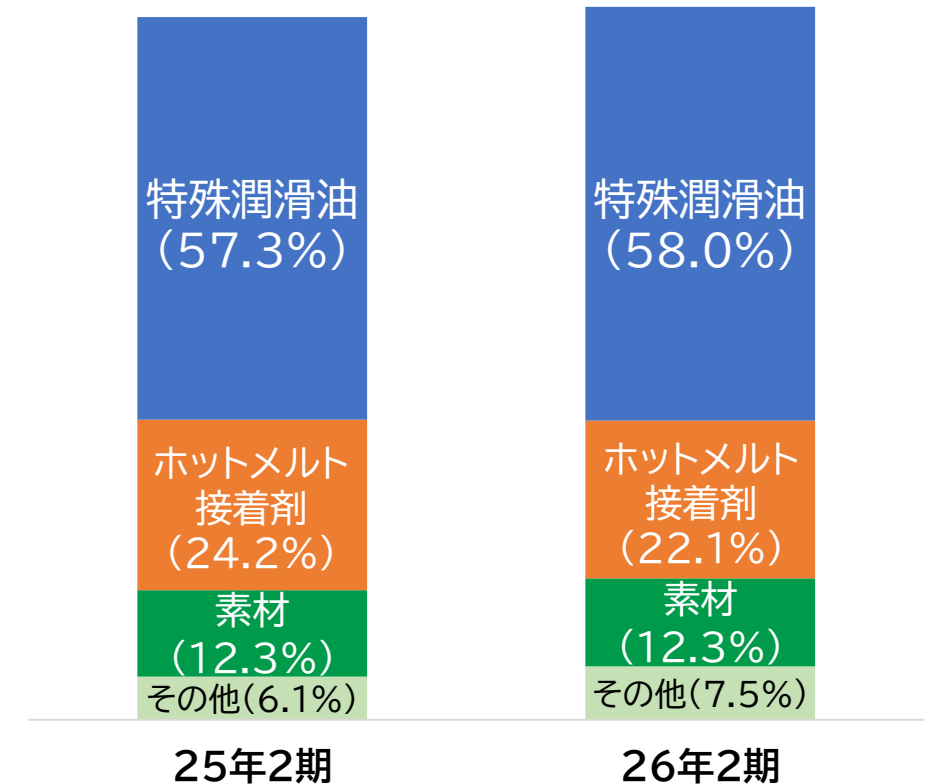
※親会社株主に帰属する当期純利益

部門別売上高

- 切削油剤やデータセンター向けハードディスク表面潤滑剤の売上高が増加(特殊潤滑油部門)
- 衛生材用途の販売が減少(ホットメルト接着剤部門)
- 排水処理装置の販売が増加(その他)

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
特殊潤滑油部門	19,697	20,238	+541	+2.7%
ホットメルト接着剤部門	8,332	7,720	▲612	▲7.4%
素材部門	4,234	4,298	+64	+1.5%
その他	2,110	2,615	+505	+23.9%
売上高合計	34,374	34,871	+497	+1.4%

部門売上高シェア



特殊潤滑油部門

【売上高】 前期比**2.7%増**(20,238百万円)

【売上数量】 前期比**0.3%増**

作動油

- 国内需要が低下し減収

DC(ダイカスト)油剤

- 中国および北米の販売は減少

切削油剤

- 新規拡販が進み増収

高温用潤滑油

- 国内需要が低下し減収

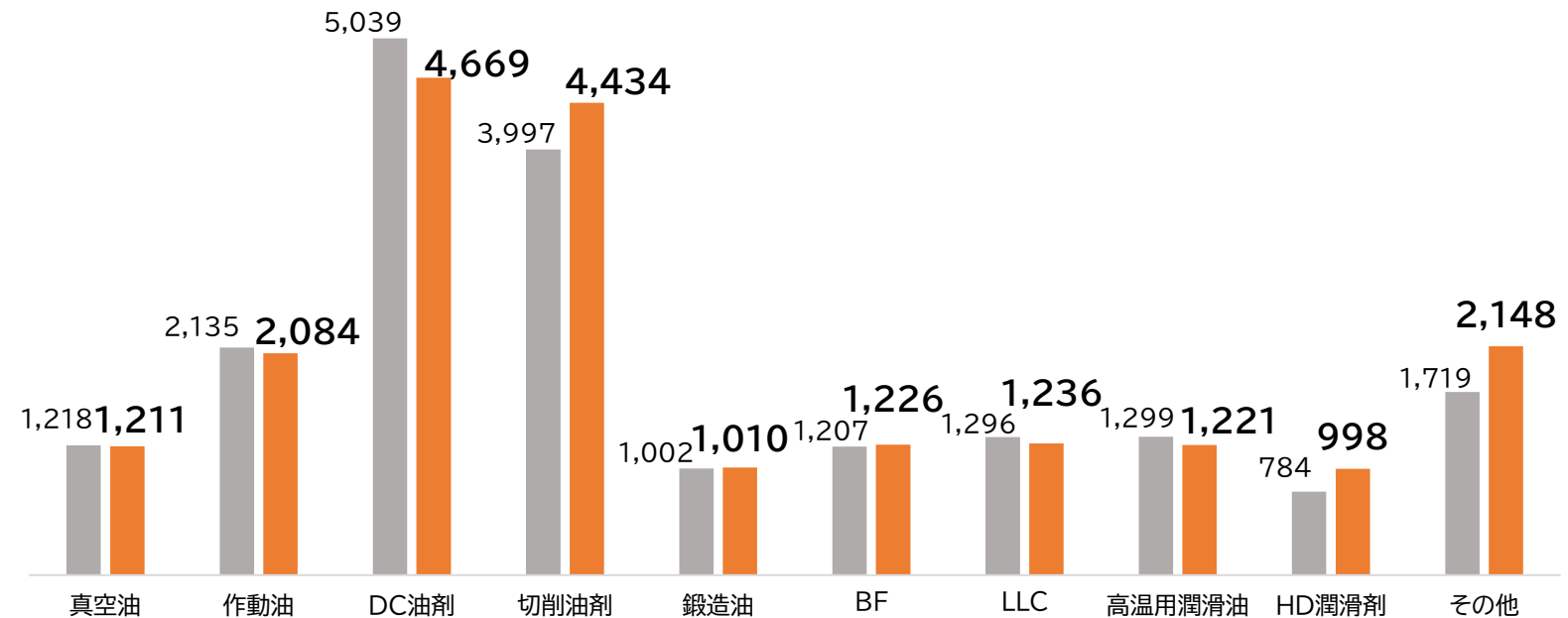
HD(ハードディスク)潤滑剤

- 需要増により増収

製品別売上高

(単位:百万円)

■ 25年2月期 ■ 26年2月期



ホットメルト接着剤部門

【売上高】 前期比**7.4%減**(7,720百万円)

【売上数量】 前期比**4.8%減**

衛生材用途

- 売上高、数量ともに減少

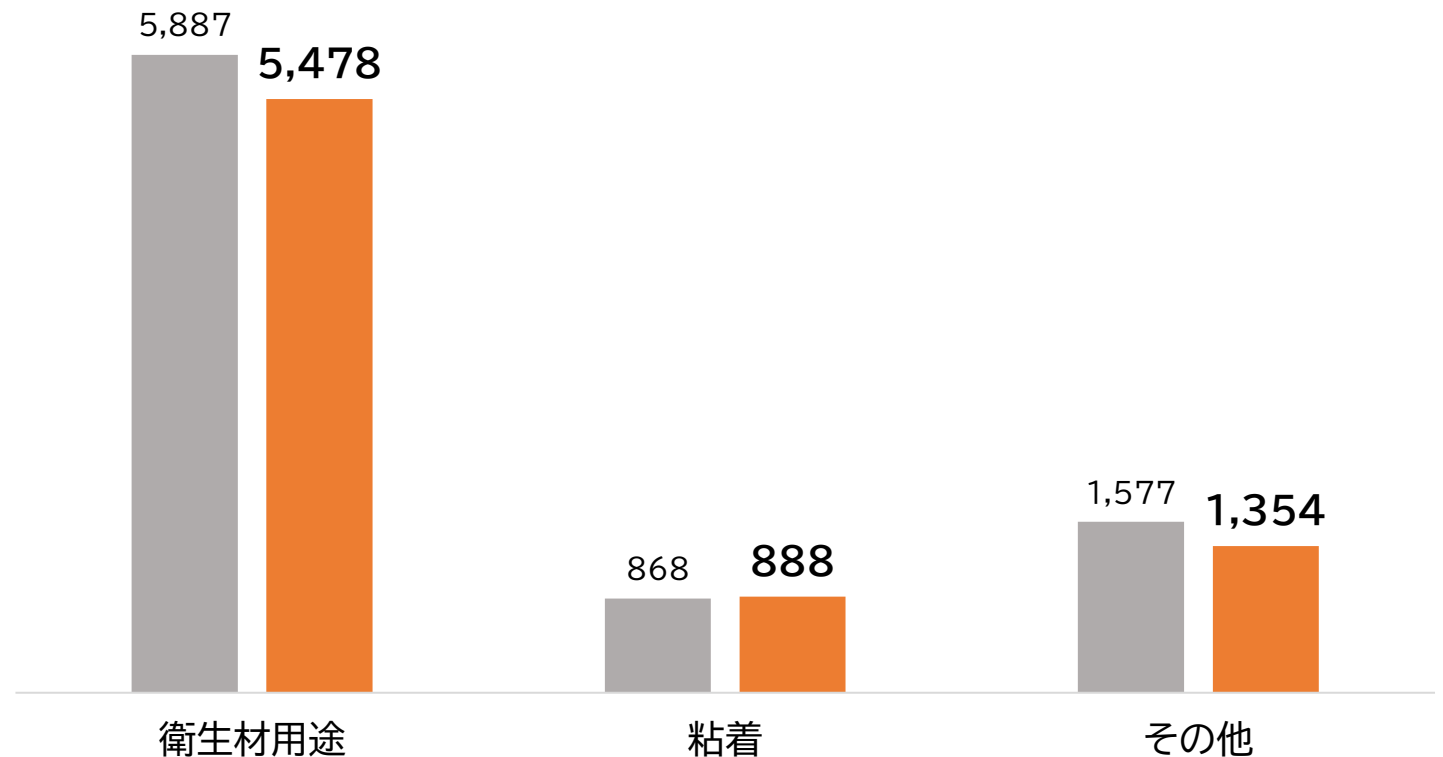
粘着

- 海外需要が低調も、国内需要が回復し増収

製品別売上高

(単位:百万円)

■ 25年2月期 ■ 26年2月期



素材部門

【売上高】 前期比**1.5%増**(4,298百万円)

【売上数量】 前期比**0.3%減**

流動パラフィン

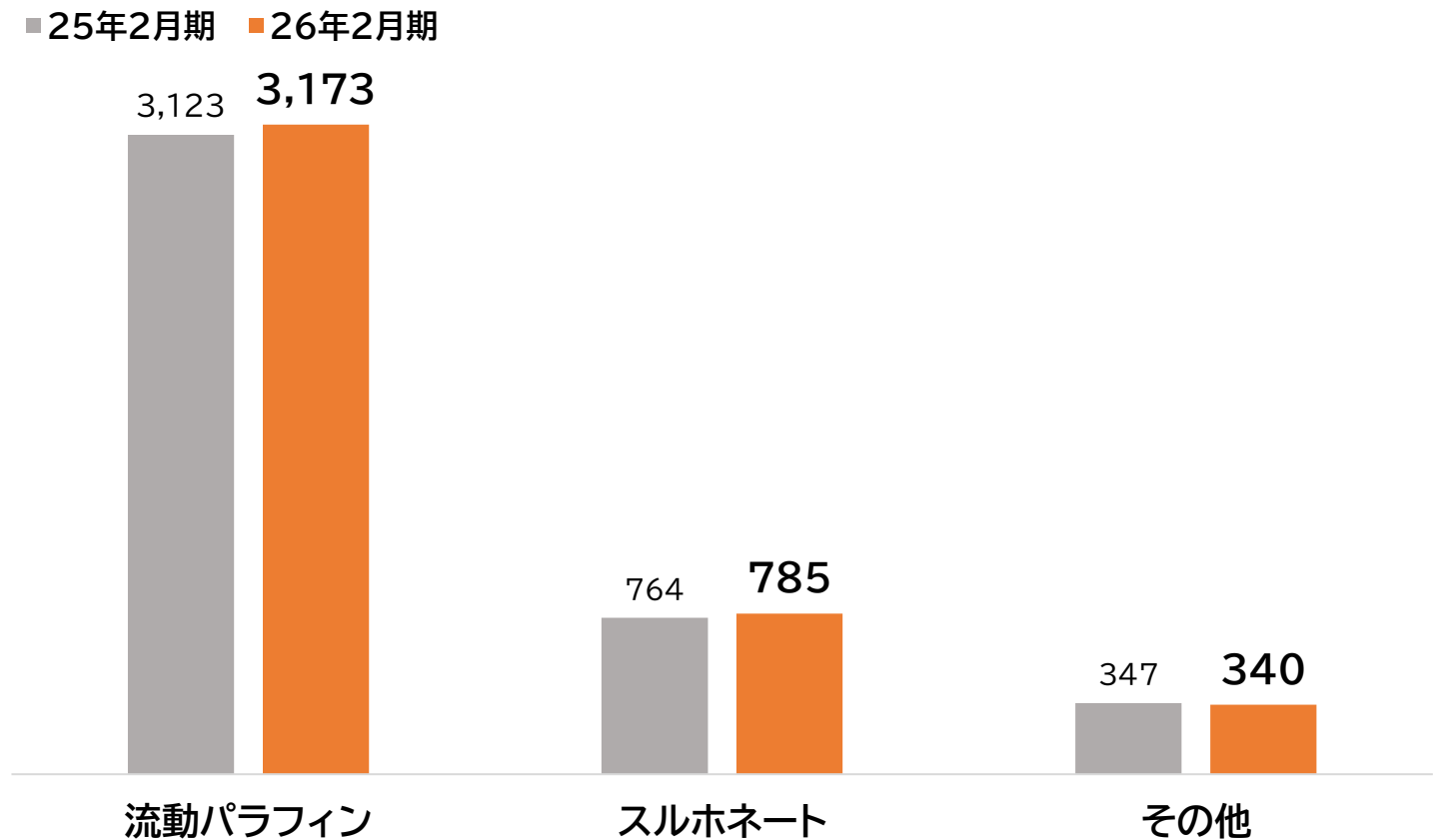
- 国内販売が安定的に推移し、増収

スルホネート

- 中国向けが低調な中、北米向けの売上が貢献し増収

製品別売上高

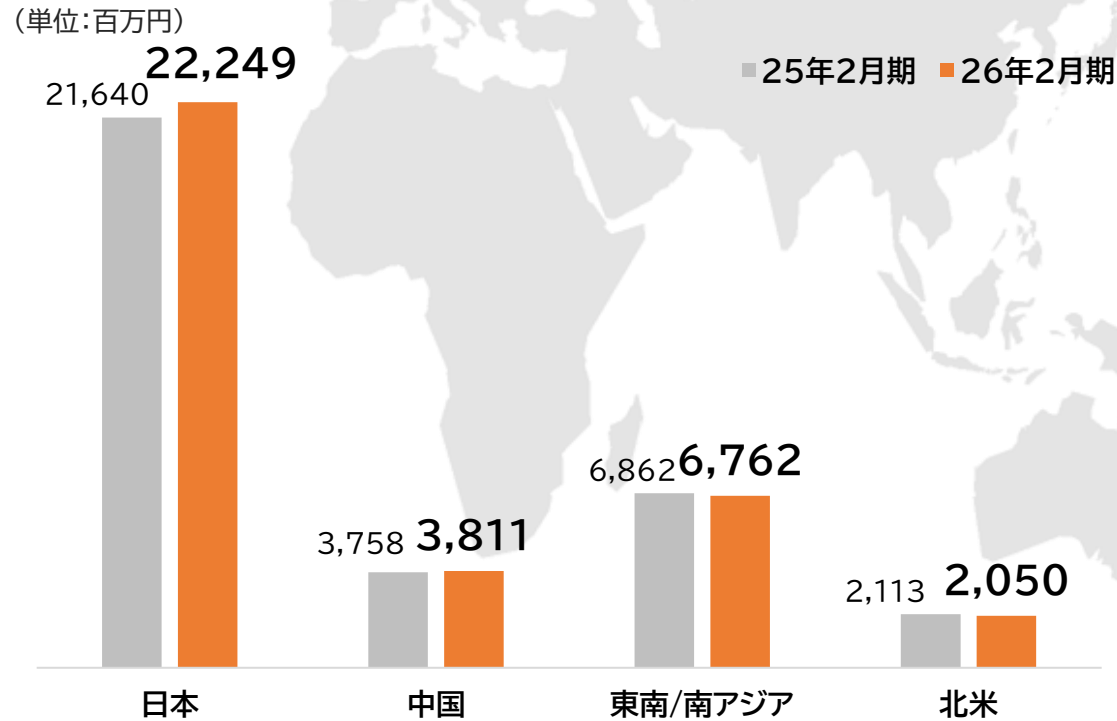
(単位:百万円)



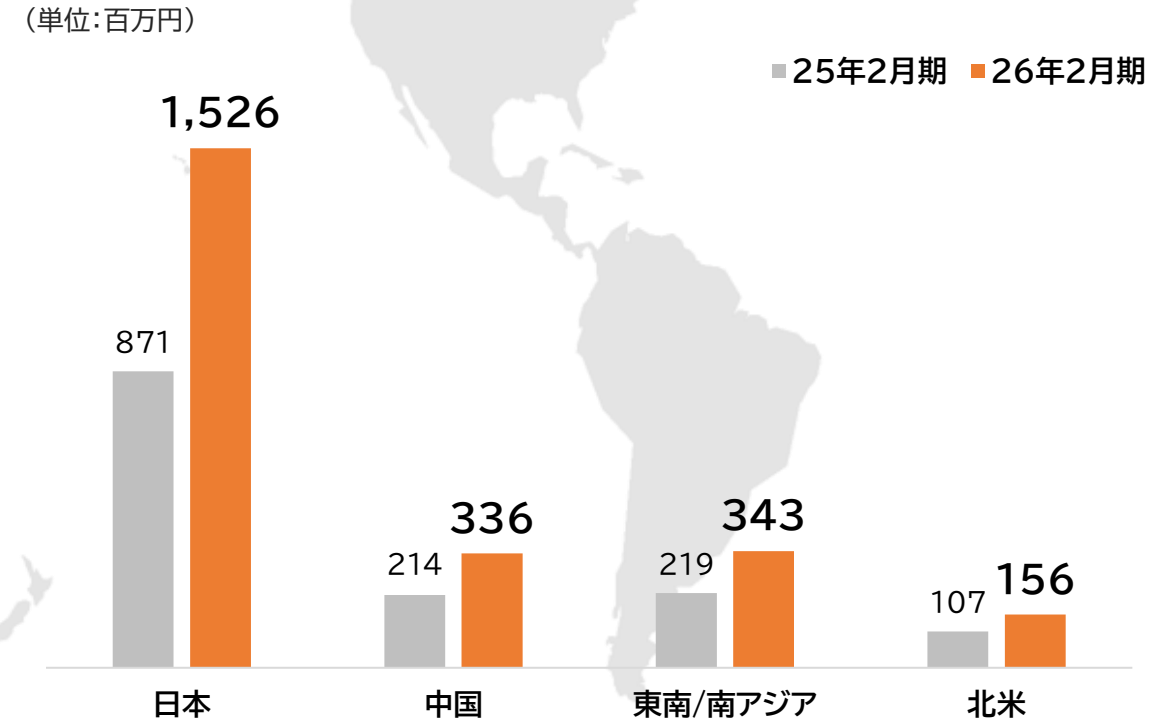
連結セグメント損益

- 【日本】 切削油剤の拡販やデータセンター向けハードディスク表面潤滑剤の販売増により増収増益
- 【中国】 DC油剤は販売減も、真空油や切削油剤の販売増により増収増益
- 【東南/南アジア】 ホットメルト接着剤の販売減により減収も、潤滑油全般が好調に推移し増益
- 【北米】 売上高は減少したものの、統合効果により増益

売上高



セグメント利益



目次

● 事業報告

● 連結決算報告

● 第10次中期経営計画の進捗状況報告

● 決議事項

● 取締役紹介

連結貸借対照表

棚卸資産	
・ 製品	▲270
有形固定資産	
・ 機械装置および運搬具	▲275
投資その他	
・ 退職給付資産	+606
有利子負債	
・ 長期借入金	▲832
包括利益累計額	
・ 為替換算調整勘定	+199
・ 退職給付に係る調整累計額	+665

(単位:百万円)		増減額		増減額	
現預金	6,914	+1,406	仕入債務	5,081	+81
売上債権	8,661	+531	有利子負債	4,560	▲557
棚卸資産	6,892	▲235	その他流動負債	2,681	+496
その他	662	+167	その他固定負債	1,477	+492
流動資産合計	23,129	+1,870	負債合計	13,799	+511
有形固定資産	9,932	▲482	資本金・資本剰余金	4,096	+7
無形固定資産	1,283	▲89	利益剰余金	16,385	+1,112
投資その他	6,338	+1,087	自己株式	△641	+8
			包括利益累計額	3,637	+665
			非支配株主持分	3,406	+82
固定資産合計	17,553	+516	純資産合計	26,883	+1,874
資産合計	40,683	+2,386	負債・資本合計	40,683	+2,386

連結損益計算書

売上高

- 特殊潤滑油部門の売上増

売上総利益

- 販売価格の是正および高付加価値製品の拡販

営業利益

- 販売費および一般管理費の抑制

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	34,374	34,871	+497	+1.4%
売上総利益	9,960	10,957	+997	+10.0%
販売費・ 一般管理費	8,569	8,590	+21	+0.3%
研究開発費	(1,599)	(1,544)	▲55	▲3.4%
営業利益	1,391	2,367	+976	+70.2%
営業外損益	430	337	▲93	▲21.7%
経常利益	1,821	2,704	+883	+48.5%
税引前利益	1,585	2,612	+1,027	+64.8%
当期純利益※	1,013	1,525	+512	+50.6%

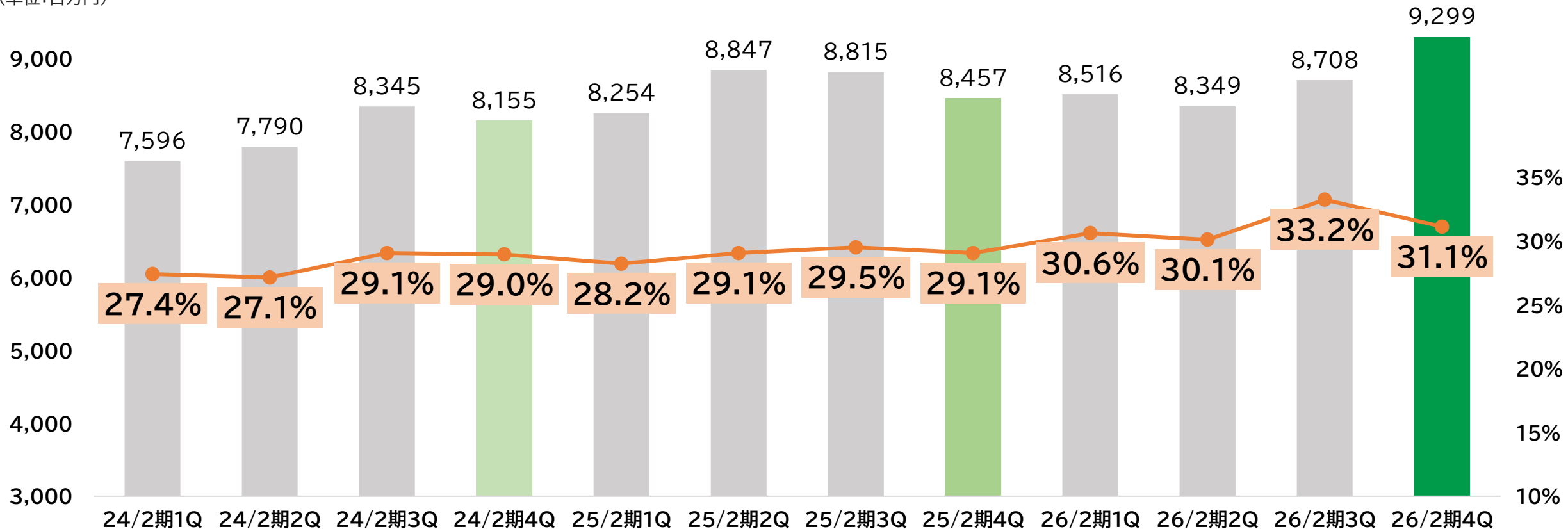
※親会社株主に帰属する当期純利益

連結売上高および連結売上高総利益率の推移(四半期)

- 売上高は増加傾向を維持
- 売上高総利益率は31%台を確保

■ 売上高 ● 売上高総利益率

(単位:百万円)



第68期のトピックス(グローバル体制の強化に向けた取り組み)

- ▶ 北米および中国における経営体制の見直し(2025年12月12日公表)

北米におけるグループ会社2社の合併について

北米の連結子会社 MORESSCO USA Inc.(米国ミシガン州)と、CROSS TECHNOLOGIES N.A.INC.(米国ミシガン州)の合併を行いました。

中国のホットメルト工場(天津)の解散について

現在、当社グループのホットメルト接着剤事業は、日本、中国、インドネシア、インドで展開しております。

グローバル生産体制の見直しに伴い、中国の連結子会社を解散し清算することといたします。

第68期のトピックス(第2研究センターの建設)

- 新規事業の創出に向けて、現在、新たな研究センターを建設しています。2027年3月頃の運用開始を目指しています

第2研究センターの外観イメージ



研究センターの所在地



目次

● 事業報告

● 連結決算報告

● **第10次中期経営計画の進捗状況報告**

● 決議事項

● 取締役紹介

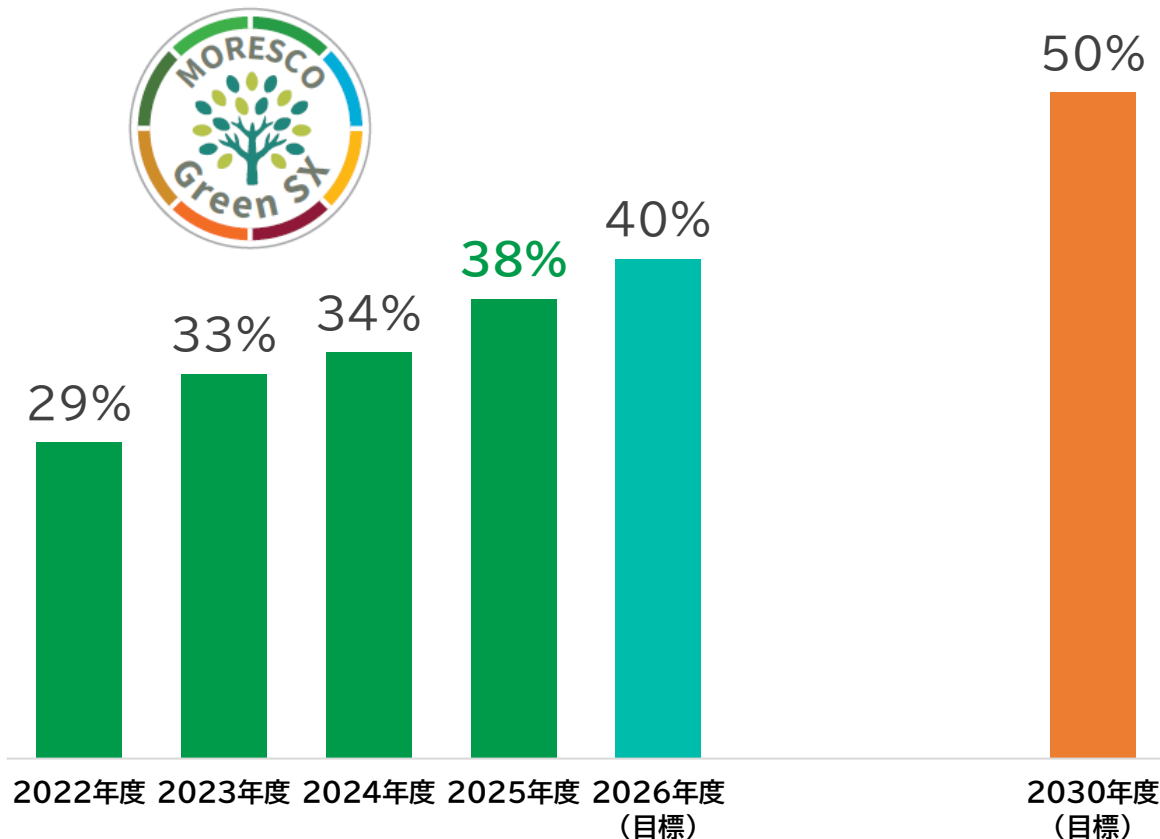
第10次中期経営計画の主な成果

(基本方針(事業戦略))		(主要な取り組み)	(主な成果)
サステナビリティ経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● カーボンニュートラルの推進 ● MGS製品売上比率の引き上げ ● 環境負荷低減への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2025年度のGHG削減率は53%(2013年度比) ● 2025年度のMGS製品売上比率は、38% 	
製品ポートフォリオの高度化	<ul style="list-style-type: none"> ● 高付加価値製品の開発と売上拡大 ● サーキュラーエコノミーへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体分野におけるPFASフリー潤滑剤などの新製品開発を加速 ● 原料のリサイクルシステムを確立し、再生した油を原料として再利用 	
次世代事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● ライフサイエンス事業への注力 ● ペロブスカイト太陽電池関連の事業推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社独自のナノエマルジョンを使用した自社化粧品のオンライン販売開始 ● ペロブスカイト太陽電池の開発では実証実験が進み、またフィルム太陽電池研究コンソーシアムに入会 ● フュージョン(核融合)プラントの開発への関与を積極化 	
業務プロセスの革新	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産プロセスの革新 ● DX化の推進 ● 物流問題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生成AIの活用により製品の開発・改良の配合検討を迅速化、効率化 ● 素材事業部では、新たな化学処理方法(単体処理法)の導入に向けた実機生産の準備が進む 	
資本収益性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 収益力(稼ぐ力)の強化 ● 人的資本経営の推進 ● 株主還元 ● IR活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業部別ROIC逆ツリーの作成やROIC指標での目標管理を開始 ● 健康経営、人材戦略 	
(基本方針(海外戦略))			
グローバル体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 【中国】 新工場の操業早期安定化、開発体制強化 【北米】 事業買収シナジー創出等 【東南/南アジア】 R&D機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル生産体制の見直しとそれに伴う中国子会社の解散 ● 北米2社(MORESCO USAおよびCROSS TECHNOLOGIES)の合併 ● メキシコに子会社(MORESCO LUBU MEXICANA)を設立 ● タイや中国を中心にR&D体制を強化 	

MORESCO Green SX(MGS)製品売上比率の推移

➤ 2026年度目標(40%)の達成に向けて、MGS製品の開発を加速します

MGS製品売上比率



MGS製品

水溶性切削油剤 モレスコツールメイトGR-5

環境保全

作業環境改善

独自の特殊添加剤によりガラス粉の固化、浮遊を抑制します。
遠心分離器など周辺装置の不具合低減に加え、入替作業時間を1/4に削減します。



反応型ホットメルト モレスコメルトRO-400

省エネルギー

作業環境改善

空気中や被着体に含まれる水分(湿気)によって硬化する反応型ホットメルトです。塗工後の乾燥工程不要による生産性向上とエネルギー削減、脱溶剤化による環境改善に貢献します。



高付加価値製品の開発と売上拡大(PFASフリー潤滑剤)

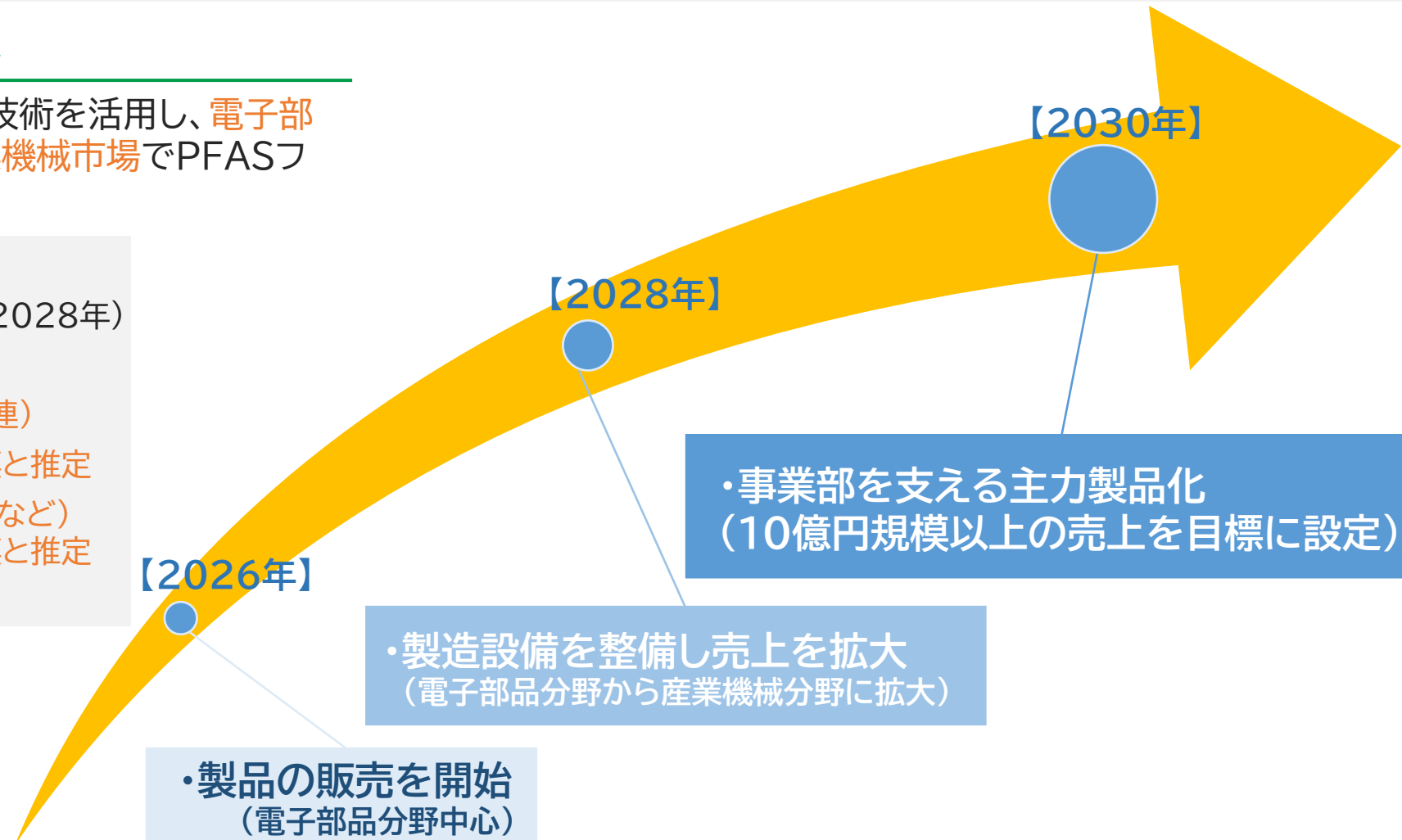
電子部品(半導体製造装置)向けPFASフリー潤滑剤を開発し、2026年度中に製品の販売を開始する予定です

当社の取り組み

- ✓ 高温用潤滑油などの分子合成・配合技術を活用し、**電子部品(半導体製造装置)市場**および**産業機械市場**でPFASフリー製品の展開を図ります。

【市場規模(全体)】

- 700億円(2022年実績) → 1,100億円(2028年)
- 主な用途別(2022年実績)
 - **電子部品**: 24%(半導体製造装置関連)
 - ➔ 約170億円の市場規模と推定
 - **産業機械**: 14%(コルゲーターマシンなど)
 - ➔ 約100億円の市場規模と推定
 - **自動車**: 15%



ペロブスカイト太陽電池向け封止材(開発活動状況)

- 技術連携コンソーシアム(桐蔭横浜大学 宮坂教授)との協働、フィルム太陽電池研究コンソーシアム(京都大学 若宮教授)入会など、ペロブスカイト(PSC)用封止材の早期開発の取り組みを強化しています

最近の開発活動例

- 宮坂教授(桐蔭横浜大学)との連携
高槻市の農園に設置した実証実験用PSCに当社封止材適用(2024年10月)



- フィルム太陽電池研究コンソーシアム(京都大学若宮教授)に入会(2025年4月1日)

当社の封止材(熱可塑性樹脂)の特徴

- 1) 高い水蒸気バリア性
- 2) 基材に対する高い接着力
- 3) 有機素子への低い損傷性
- 4) 水蒸気を通さないバリアフィルムに塗工した形での提供が可能



- 各メーカーの開発スタンスに合わせて、ガラス基板型、フィルム基板形の開発を進めています。

耐放射線性潤滑剤(フュージョン(核融合)プラント関連事業)

- フュージョン(核融合)プラントの開発において、当社は固有技術の耐放射線性潤滑剤で貢献します

京都フュージョニアリング社との包括的業務提携

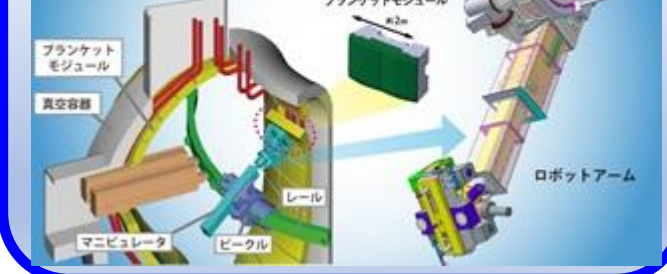
- ・2025年5月、当社は、京都フュージョニアリング社と将来のフュージョン(核融合)プラントに用いられる耐放射線性潤滑剤の共同開発および販売に関する包括的業務提携を開始しました。



- ・ITER(フランス)、DONES(スペイン)など、当社は世界のフュージョンプラントの開発計画に積極的に関与し続けます。

フュージョンにて当社製品の搭載が想定される装置例

ブランケット交換
ロボット機構

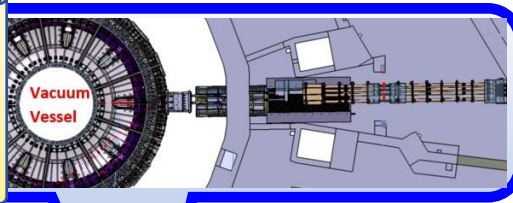


The image courtesy; QST

Plasma Heating (Gyrotron) System
(ジャイロトロンシステム)



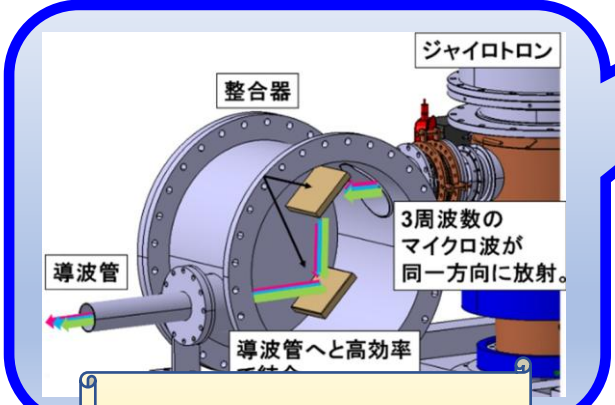
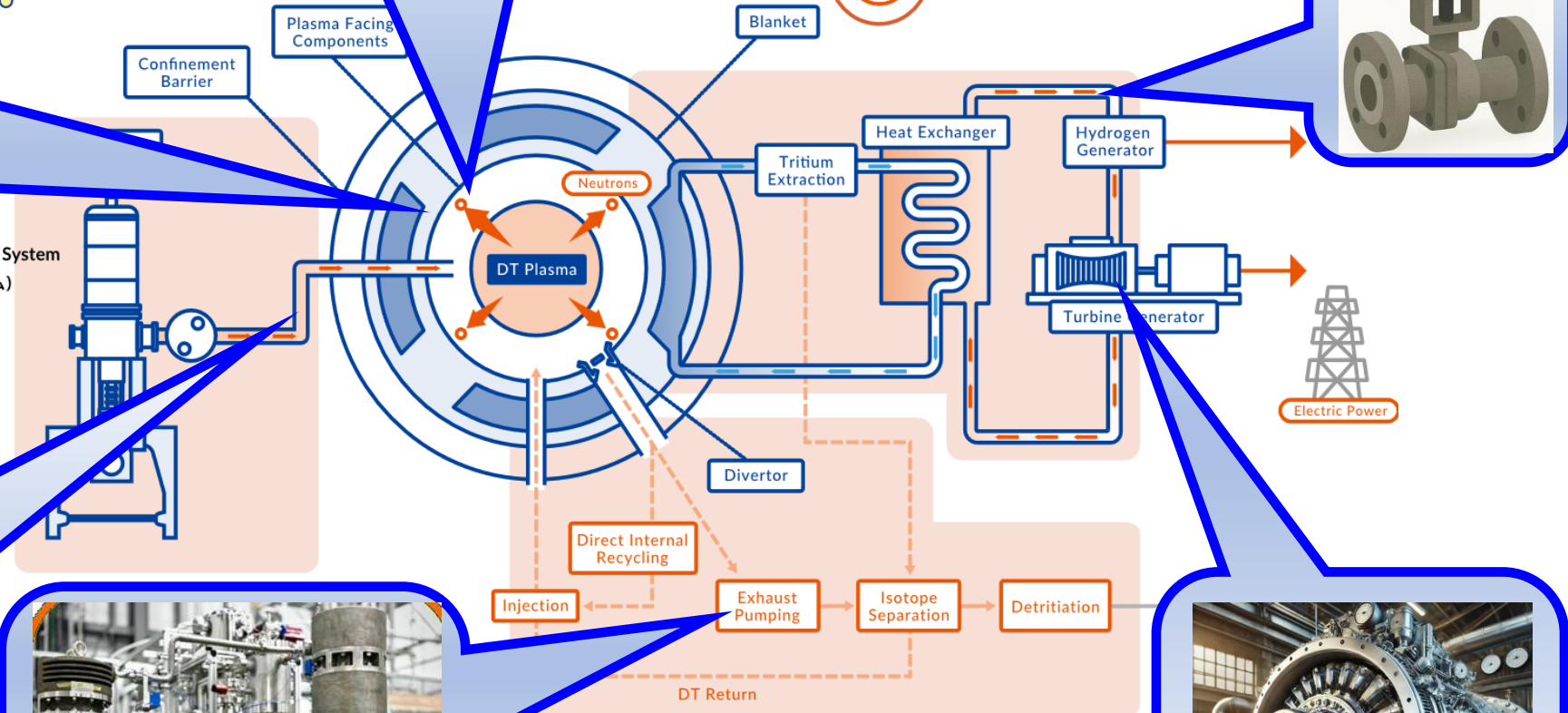
プラズマ他
監視プローブ



遠隔操作
蒸気バルブ



Fusion Thermal Cycle System
(フュージョン熱サイクルシステム)



加熱高周波導入
ミラー調整機構



真空
ポンプ



Fusion Fuel
(フュージョン燃料)

蒸気タービン
機構



27年2月期の業績予想

通期予想の前提

- 原油価格(ドバイ):130ドル/bbl
- 為替レート:160円/ドル

1株当たり年間配当金(予想)

- 55円(中間:25円、期末30円)

	26年2月期 実績	27年2月期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	34,871	37,000	+2,129	+6.1%
営業利益	2,367	2,400	+33	+1.4%
経常利益	2,704	2,700	▲4	▲0.1%
当期純利益※	1,525	1,550	+25	+1.6%

※親会社株主に帰属する当期純利益

目次

● 事業報告

● 連結決算報告

● 第10次中期経営計画の進捗状況報告

● **決議事項**

● 取締役紹介

剰余金の処分の件

(1) 配当財産の種類
金銭

(2) 配当財産の割当に関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき金35円 総額321,201,300円

なお、昨年11月に中間配当として当社普通株式1株につき20円をお支払いしておりますので、年間の配当金は1株につき55円となります。

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日
2026年5月28日

取締役(監査等委員である取締役を除く。)6名選任の件

取締役候補者

もろ ずみ	もと ひさ	
両 角	元 寿	
せ わき	のぶ ひろ	
瀬 脇	信 寛	
ふじ もと	ひろ ふみ	
藤 本	博 文	
ほそ み	じ ろう	
細 見	次 郎	
ふく だ	かつ ひと	
福 田	勝 人	
さか い	ひろ し	(社外取締役)
酒 井	浩 志	

監査等委員である取締役4名選任の件

監査等委員である取締役候補者

【新任】	<small>たけ うち</small> 竹内	<small>ただし</small> 正	
	<small>なか じょう</small> 中上	<small>みき お</small> 幹雄	(社外取締役)
	<small>ふ じ</small> 富士	<small>ひろ こ</small> ひろ子	(社外取締役)
【新任】	<small>ひら ざわ</small> 平澤	<small>ゆき こ</small> 裕紀子	(社外取締役)

目次

● 事業報告

● 連結決算報告

● 第10次中期経営計画の進捗状況報告

● 決議事項

● 取締役紹介

取締役のご紹介

取締役

もろ ずみ もと ひさ
両角元寿

せ わき のぶ ひろ
瀬脇信寛

ふじ もと ひろ ふみ
藤本博文

ほそ み じ ろう
細見次郎

ふく だ かつ ひと
福田勝人

さか い ひろ し
酒井浩志 (社外独立)

取締役(監査等委員)

たけ うち ただし
【新任】竹内正

なか じょう みき お
中上幹雄 (社外独立)

ふ じ ひろ こ
富士ひろ子 (社外独立)

ひら ざわ ゆき こ
【新任】平澤裕紀子 (社外独立)

地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ



MORESCOグループ統合報告書2025

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。